



かけ はし
懸 橋



五戸トンネルから望む新幹線高架橋ライン

もくじ

■ 第4回定例会・臨時会	2～3頁
■ 一般質問（要旨）	4～13頁
■ 研修報告	14～15頁
■ 議長日誌・編集後記	16頁

表彰条例、名誉町民条例などを制定

旧百石町名誉町民 故・木村秀吉氏、故・三村泰右氏、故・大山康晴氏を引き続き名誉町民に



定例会（開会日）

平成十八年第四回定例会は、十二月一日から六日までの六日間の会期で開かれ、議案二十四件、報告一件が上程されました。その主なものは、おいらせ町表彰条例、名誉町民条例の制定、いちょう公園整備事業用地の取得、平成十八年度一般会計補正予算など、いずれも原案のとおり可決、承認しました。

主な議案の内容

◆おいらせ町表彰条例の制定

町の政治、経済、文化、社会等の各般にわたって町政の振興発展に寄与し、または衆人の模範と認められる行為があったものを表彰する。

◆おいらせ町名誉町民条例の制定

広く社会文化の興隆又は本町の発展に貢献し、その功績が卓越し、郷土の誇りとして町民から深く尊敬されているものに対し、名誉町民の称号を贈る。

◆おいらせ町特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償額に関する条例の一部改正

国民保護協議会条例が施行されたことに伴い、協議会委員の報酬額を定める。

◆おいらせ町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正

休憩時間の廃止及びび休憩時間の見直し、育児・介護を行う職員の早出遅出勤務の対象範囲を拡大する。

◆いちょう公園整備事業用地の取得

・総面積
一万二千二百二十七平方メートル

◆農業委員会委員を推薦

平成十九年二月二十八日をもって任期満了することに伴い、町議会から二名を推薦した。

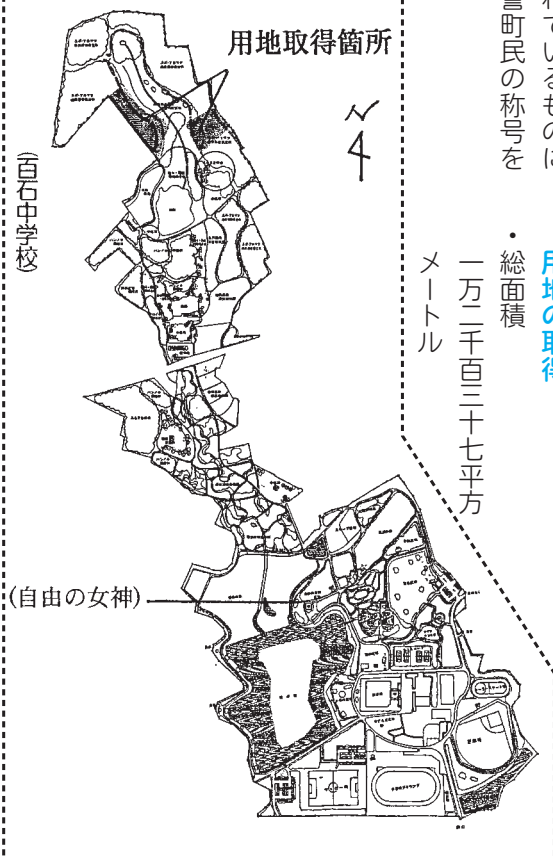
委員 立花 國雄氏
委員 澤頭 好孝氏

・予定価格
一千八百十六万七千円

いちょう公園整備事業

用地取得箇所

4



補正予算

◆一般会計

補正額は、一千八百一
万六千円の追加で、総額
は百二億七千七百八十二
万五千円。

歳出の主なものは、

○総務費

- ・議場改修工事費
- ・旧八戸消防署北分署庁舎の解体工事費

○民生費

- ・精神障害者地域生活支援センター事業補助金の増額
- ・生きがい活動支援通所事業委託料の増額

○衛生費

- ・浄化槽設置整備補助金の増額

○農林水産業費

- ・噴流式マンガン(百石漁協で導入)の購入補助金

○土木費

- ・除雪経費の増額

○消防費

- ・防火水槽の補修工事費
- ・下田消防団第四分団(三田)拠点施設の建設工事費

○教育費

- ・光熱費の増額
- ・下田中学校の改修工事費

○災害復旧費

- ・彦七川原地区の農地の復旧工事費(十月の低気圧被害によるもの)

◆国民健康保険特別会計

- ・五千九百八十八万六千円を追加し、総額は二十四億四百二十九万八千円。
- ・保険給付費の増額等

◆公共下水道事業特別会計

- ・一千三十二万七千円を追加し、総額は十三億八千四十七万二千円。
- ・水洗便所改造奨励金の増額等



定例会(一般質問)

◆農業集落排水事業特別会計

- ・三十八万四千円を追加し、総額は九千五百六十五万七千円。
- ・人事異動に伴う人件費の追加。

◆介護保険特別会計

- ・居宅介護予防サービス計画等給付費の増加に伴う歳出予算の組み替え。

◆病院事業会計

- ・収益的収入及び支出に四千五百九十七万円を追加。
- ・臨時医師の人件費と入院患者に係る材料費。(手術回数増による)

◆公共用地取得事業特別会計

- ・四百十五万四千円を追加し、総額は五千十六万円。
- ・洋光台団地定住促進助成金。

◆幸福橋(木内々地区)補修工事請負契約の締結について

- ・契約金額 五千四百九十一万五千円
- ・契約の相手方 ㈱三村興業社
- ・契約方法 指名競争入札

◆(仮称)南部児童センター建築工事請負契約の締結について

- ・契約金額 六千九百二十万円
- ・契約の相手方 ㈱柏崎組

主な議案の内容

◆おいらせ町職員定数条例の一部改正

- ・おいらせ病院職員を三十九人から四十八人とする。

補正予算

- ・契約方法 指名競争入札

◆一般会計

- ・補正額は、二百三十万七千円の追加で、総額は百二億五千九百八十九万五千円。
- ・歳出の主なものは、

○総務費

- ・行政訴訟に伴う委任委託料

第四回臨時会

十月十三日



臨時会

信号機を設置できないか

質問 戦後、日本は豊かになりました。しかし、この豊かな環境の中で果たして生き生きと目を輝かしている子どもがどれだけいるのでしょうか。

豊かになった分、心と心のつながりが希薄になり、いつの時も、弱い者が犠牲になってしまうという、昨今の子どもたちを取り巻く環境や報道に接するたびに深く心が痛みます。

朝々、子どもたちが安心、安全な状態で登校できるような心を砕き活動している中で、学校周辺の危険度が日々増してきているのを黙って見過ごすわけにはいきません。



日野口 和子 議員

気比神社西側、しもだ幼稚園前を通り、木ノ下小学校側へ渡るT字路と、鶉久保地区アクセス道路から、あとむら歯科に行く途中の用水路近くの十字路に信号機を設置できないか。

答弁 ご指摘の場所は、これまでにも事故が発生している認識しており、町としての実情をしっかりと訴え、理解させることが大事で、三沢警察署との協議を行い、県公安委員会に設置の要望をいたして参りたい。子どもたちが安全、安心して通学、登下校できるよう早期実現に向けて、担当課を通し、また私も警察の方に強く訴え、要望して参ります。



信号機のない危険なT字路を渡る子どもたち

質問 用水路が、低学年の子どもが多い住宅街に沿って流れていて、フェンスを乗り越えてのぞき込んでいる子どもを見かけます。とても危険です。この用水路上を歩道として整備できないか。

答弁 用水路の活用について、何らかの制限があるのか、管理者である稲生川土地改良区と協議したところ、基本的には制

限はないが、用水路の改修工事も終了していることから、施設改修にあたっては原因者負担とのことです。

歩道整備を行うとした場合の概算事業費は八千万円前後になり、歩道整備の必要性を理解しつつも、昨今の三位一体改革により、厳しい財政運営を強いられている現状での財政確保は大変難しい状況であり、時間はかか

るだろうと思っておりますが、深く、広く研究し、できるだけ答える形で検討して参りたい。

木ノ下小学校に

第二体育館を

質問 六百六十一名のマンモス校となった木ノ下小学校、子どもたちを宝と思ひ、大切と思うのであれば、伸び伸びと体を動かすことができるよう、第二体育館を新設する考えはないか。

答弁(教育長) 児童生徒の増加により、学校行事、特に入学式、卒業式では全校生徒が入れない状況となっております。

財政側との検討、関係課とも検討しながら、現在の町振興計画の中では平成二十三年度に実施設計に着手したいという計画です。

小学校・中学校のいじめの実態

は

質問 当町小学校、中学校でのいじめの実態は。教育委員会はどのように把握しているのか。また、放課後の子どもたちの安全は。

答弁(教育長) 小学校は十三件。内容として、無視、にらむ、からかう、悪口を言うなど女子児童に多いです。

中学校は二十一件。内容は、仲間に入れない、きつい言葉、物をかくす、こつく、けるなど男女とも数名によるいじめがあります。

いじめは重大な犯罪行為であり、全教員に対しても指導対応の強化を図っていきます。

放課後の子どもたちの安全は、各学校の空き教室を利用できるよう十九年度から実施します。

町長の政治姿勢について



熊野 清市 議員

質問 当町の、平成十八年度市町村別普通交付税決定額を見ますと、対前年比で二千八百八十万円余減額、加えてこれに臨時財政対策債発行可能額を含めると五千五百万円の減額になり、さらに地方特例交付金を加えるとなんと前年比六千四百万円余減額になっています。また、平成十八年度実質公債費比率についてみると、当町は十七・六％で、地方債発行に知事の許可がある十八％に近いといっています。

質問 当町の財政計画は、十八年度地方交付税見込み三十二億七千万円ですが、決定額は約二十六億円であり、ここに大きな相違を生じています。このような諸状況の中で、「まちづくり」のための合併特例債を三十八億借り入れできるか。また、地域振興基金十一億六千万円を借り入れできるか。また、人口推計についても我が国の人口が減少していく中で、実態に合わない推計になっていないのか。

答弁 新町建設計画の財政計画と現計予算を比較した場合、全体では現計予算が六千万円の減額となっており。また、本年度借り入れする地域振興基金については、十一億六千八百万円の借り入れが確定となっております。次に、合併特例債の活用ですが、新町建設計画では三十八億円の借入額を見込んでおります。今年度は地域振興基金、公共サイン整備事業、消防ポンプ自動車購入等に於けるため、十三億三千七百万円の借り入れをすることにしています。

質問 国・県の予算編成の方向が示されていない中で、新年度の重点施策事業をお伺いするのは無理があるのは承知しています。しかし、町長には、これだけはやりたいという考えがおりと思えます。そこで、新年度ぜひ手がけたい施策事業についてお答え願います。

答弁 新年度の予算は義務的経費以外の経費については、対前年五％のマインスシーリングを設定した編成方針を全課に通

進室を立ち上げ、調査をさせているところで。次に、人口推計についてですが、国立社会保障人口問題研究所で発表している推計人口と差異が無く、平成三十二年までは増加をし、以後は減少となる推計人口となっております。

対応した街づくりを主体的に取り組むための職員の施策能力の向上や、行政組織の簡素・効率化であると考えます。現在全国の自治体は、国の指示により集中改革プランを策定しており、当町も策定しました。

達しているところで。各種事業については、実施計画に基づき実施し、新年度における新規施策及び事業については現段階では検討中であり、生活関連のインフラ整備の調査結果、及び今後の国の動向を見きわめ、新年度予算に反映させたいと考えています。

新年度予算編成の基本的な考えは

現在、当町の行政組織は教育委員会を含め十六課三室となっております。青森県には、同規模の人口をもった町がありませんので、隣の岩手県矢巾町（人口二万七千人）の組織を調査したところ、十三課一室になっております。来年の人事異動期を前にして、時代に対応した組織の再編、統合を図る考えはないかお尋ねします。

次に、行政改革についての考えですが、組織の再編については、行政課題に応じ臨機応変に行われるべきであると考えております。しかし、合併後十カ月足らずで見直しを行い、軌道に乗る前に再度見直すようなことがあってはならないことも考えており、平成十九年度で十分に検討し、平成二十年四月からの実施を目標に進めて行きたい。

※「インフラ」

上下水道や道路などの生活基盤

百石・下田線の全面開通 信号機の設置を

質問 百石・下田線の進捗状況について問う。

全面開通が遅れている原因は何故か。同時に百石小学校近くの十字路に信号機をつける予定はあるか。



信号機のない百石小学校近くの十字路

答弁 事業主体が青森県で平成八年度から事業に着手し、地権者との用地交渉を重ねてきたとのことですが、現在二名の方からの用地協力が得られず、全面開通のめどは、はっきり立っておりません。がしかし用地交渉については全面的に町側でも協力していきます。



吉田 絹恵 議員

信号機の設置ですが、十五年度完成予定の時点では、信号機の設置の確約はとっておりません。全線開通のあかつきには第一優先になります。

百石漁港の 展望は

質問 平成二十年度をめぐりに完成予定の百石漁港について、町ではどのような構想を持ち、取り組もうとしているのかを問う。

答弁 視察研修で学ばせて頂いた漁港に関する全ての産業との連携は、どのようにとらえているのかを問う。

答弁 漁港整備計画の主な目的として一つ目は、安全で快適な漁業地域の形成であります。

二つ目は、水産物流通の効率化と一貫した品質管理であります。

三つ目としては、漁業生産基盤の整備であります。漁業資源の維持の拡大、漁場環境保全のための整備、及び資源回復計画を推進し、意欲と能力のある担い手の確保育成を図ることにより、漁業協同組合の組織としての

経営基盤の強化が図られると考えます。

今後は、漁港整備とともに荷さばき施設、製氷施設、給油施設等の漁港関連施設の建設に着手するため、県漁港漁場整備課及び関係機関との協議を、さらに漁業者、関係団体の方々が主役になり協議を重ねながら、当町の特性を生かした総合的な漁業振興と百石漁港及び関連施設整備促進を図っていくことが必要と考えています。

合併九カ月、おいらせ町の 流れはいかに

質問 住みたい町おいらせ町を目指し、実態と今後の見通し、さらに、あらゆる分野からの問題をどのようにとらえているか問う。町民一人ワンパワを提唱し取り組む姿勢はあるか。

答弁 新町建設計画の基

本方針に基づき各施策に

着手しております。

本格的な地方分権時代の到来の中、限りある財源の中で、多様化、高度化し、変化し続ける住民ニーズに対応したきめ細かな公共サービスの提供を、行政ですべて担うことは容易でないと推察しております。今後は住民の社会貢献活動等を通じ、

行政と住民との協働のまちづくりをめざします。

まちづくりの原動力である役場職員の意識改革はもとより、地域活動を担うマンパワーの発掘や人材育成などに積極的に取り組み、自主、自立のまちづくりをめざします。



平成20年度完成に向け整備が進む百石漁港

三村町長の

政治姿勢は

質問 平成十九年度予算編成は、町長の二年目の予算です。十二月二十日まで各課長から予算要求が出されることになっており、町長として当初予算編成を控え町財政をどう認識しているか、合わせて明年度の施策の主なものは何か。

が、毎年ローリング（見直し）しております実施計画に基づき実施して行きたいと考えています。

また、二年目の三村カラーについては、五つの基本姿勢を示して取り組んでおりますが、新旧事業として、一つに総合計画の策定であり、二つには町内集落への街灯整備事業の着手であり、三つに継続事業の着実な実現を念頭においてまい進したいと考えています。

来年度行われる

選挙の投票率

アップについて

答弁 厳しい状況下にあると認識しており、しかしながら厳しいがゆえに職員とともに一丸となって知恵を出し、汗をかき、組織の総合力を持ってこの苦難に立ち向かわなければと認識しております。

質問 来年の選挙は、二月は農業委員、四月は県議会議員と町議会議員、六月は県知事、七月は参議院選挙が行われます。

投票率を上げるため、一斉放送と広報車による呼びかけを、投票日前日と当日に行っていたいただき、また期日前投票所を

本庁舎と分庁舎の二カ所で行うことができないか。

答弁（選挙管理委員長）

投票率のアップ、すなわち町民の選挙への参加は民主主義の根幹をなすものであり、特に意義あるものと認識しています。したがって、投票の呼びかけは今後も積極的に取り組んで参りたい。

次に、期日前投票の実施方法については、当委員会でも意見交換しており、自らの選挙については二カ所で実施の考えもありますが、経費も必要なので慎重に審議して参りたい。

町長と女性との懇談会

女性による模擬議会開催

男女共同参画推進本部

設置について

質問 新おいらせ町誕生によって十月末現在人口も二万四千九百人でも毎月増えており、女性は一

万二千七百八十四人です。

そこで、町長と女性との懇談会を開き、婦人会、PTA、商工会、農業協同組合、漁業協同組合、企業等の女性を募集し、女性の意見を町づくりに生かしたらどうか。

また、新町誕生一周年を記念して、第一回女性模擬議会を来年三月一日頃開催することも検討願います。

次に、男女共同参画について、当町でも推進本部を設置して各種委員会、協議会等のメンバーに、最低でも三分の一の女性登用を検討願います。

答弁 女性ならではの視点からとらえた意見、提案を直接聞ける貴重な場を設けることは重要と考え、平成十九年二月に新町女性井戸端会議の開催を予定しています。

また、女性模擬議会につきましても、この懇談会において開催案を検討していただき、決定したいと考えております。

旧下田町内の街路

灯、防犯灯の整備

と管理の見直しを

に街灯の新設及び更新要望を取りまとめ、調整し事業実施したい。なお、電気料金については、平成十八年四月一日から全額町負担となっています。

質問

旧百石町の全町内に街路灯は千百六十二灯、商業灯約八十を、総事業費一億七千三百万円で設置し、電気料も全部町が支払っております。

旧下田町では街路灯、

防犯灯は約二千灯位設置されているとのことですが、旧百石町と違って暗く、電球も二十ワットが多いとのことであり、合併して同じおいらせ町であります。新年度予算で旧百石町同様に改善していただきたい。

答弁

平成十九年度から平成二十二年までの四カ年の電源立地対策交付金事業として計画しており、すでに旧下田全町内の既設街灯約二千灯の設置箇所、及び照明器具の調査を終えています。この結果をもとに、年度内

奨学資金貸与の検討を

質問 平成十八年度の奨学資金貸与者を募集した結果、二十八人と聞いており、選考委員会で予定した八人を変更して十七人に決めたようですが、平成十九年度予算についても良く検討していただきたい。

答弁（教育長）

教育委員会への諮問の中で、貸与期間の短縮、月額の減額という意見もいただき、これにより平成十九年度は十八人から二十人の奨学生に貸与できる体制を整えて、募集及び受付が可能と考えております。



北向 敬夫 議員

資源ゴミ分別の周知を

質問 新町がスタートして、町の一部の地域で一般家庭のゴミの出し方が変わりました。特に資源ゴミの分別が変わったことで、町民がかなりの負担を感じているという声を聞きます。

そういう現状の中で、町としては今後、資源ゴミの分別について、町民に理解をしていただくための、行政の指導が継続的に行わなければならないと思います。

町民に周知を図るため、新たな施策を考えているのか伺います。

答弁 限りある資源の有効利用のため、これまで機会あるごとに町広報等を通して、正しい分別やゴミ出しマナーについてお願いをしてきているところですが、今後さらに町民、事業者、土地占有者等が資源ゴミの処理に自ら責任を持ち、自発的な行動と協働による快適でさわやかな生活環境のまちづくりを総合的に推進するための施策として、おいらせ町環境美化条例を来年三月定例会へ提案する方向で、町廃棄物減量等推進審議会に諮り、議論を賜っているところです。

意識啓発による分別ルールの遵守、及びゴミの減量化・資源化の推進など、環境美化の促進を推進する事業を考えております。



川口 弘治 議員

ゴミ焼却建屋

の解体は

質問 国では焼却施設の規制措置として廃棄物処理法に基づく省令を改正し、構造、維持管理基準が強化される動きであると伺っております。

当町の焼却建屋は現在廃屋状態ではありませんが、解体するにしてもダイオキシン規制により特殊な処理をしなければならぬと聞いております。

財政上の問題があるにしても、いずれ解体をしなければならぬものと思われま。

町としては、焼却建屋の解体をいつ行うのか、具体的な計画があるのか伺います。

答弁 平成八年に廃止されたこの施設は、現在、南側外壁が崩壊し、内部の腐食が進んでいるなど、老朽化が著しく危険な状態にあります。このよう

なことから、具体的な解体時期については、今後



旧百石町ゴミ焼却場（日ヶ久保地区）

財政的な面や休止している最終処分場の廃止も視野に入れながら計画を検討して参りたい。ただし、解体するまでの危険防止対策として、来年度フェンスの設置を計画していきますのでご理解いただきます。

土地利用の

見直しは

質問 当町は、地形的にも恵まれ、交通の便もよ

く、町長がよく話しているとおり、住んでみたい町、住んでよかった、と思える町にふさわしい条件を備えていると思えます。しかし、地方の現状と法律の下では、現実かなりの開きがあるものと思われま。

国土利用計画法により、市街化調整区域が大半を占める当町において、土地があるからといって、簡単に家を建てられない現状にあります。また、さらに農地法もからんで相当難解な問題であると

聞いております。このように難しい問題に対して、町長は公約の一つに土地利用の見直しを掲げ、積極的に取り組んでいる姿勢には、個人エールを送るものであります。町では今現在どのような取り組みをしているのか、また、今後の見直しはどうかをお伺いします。

答弁 新町おいらせ町の国土利用計画及び総合計画の策定作業の調整を行うとともに、土地利用見直しに必要な道路管理形態や排水形態等の課題及び問題点の掘り起こしなど、土地利用に関わる要因の現状分析を行っております。

今後の見直しとして、今年度中に国土利用計画及び総合計画の策定スケジュールを確定し、土地利用計画に関わる基盤整備の方向性、及び策定のタイムスケジュールを明確化したいと考えています。

いじめ対策

学力低下の対策は

どうしているか



下川原 千秋 議員

ために何をしているか。

答弁(教育長) 学校においては習熟度別クラス編成、*「チームティーチング」などをして、また家庭においての学習習慣の形成もお願いしている。

質問 教育の現場ではいじめの問題が全国的に問題になっているが、当町ではどんな対策をとっているか。

答弁(教育長) 事実確認をした上で保護者に連絡し、場合によっては校長・

教頭なども含めた話し合いをしている。また毎日の学習活動の中で思いやりの心を育み、生命に対する畏敬の念を育てることに努めていくよう指導している。

質問 学力低下が問題となっているが学力向上の

質問 情報化に対応した教育はどうしているか。
また、コンピュータを使用する際、周りが高温になるという苦情が出ているがどうするつもりか。

答弁(教育長) 管内八校全部に教育用コンピュータを整備して、一人ひとりが情報活用能力を身につける教育をしている。また室温の問題は三校については未整備であり、授業にさらに集中させるためにも順次整備していきたい。

※「チームティーチング」
複数の教師が協力して教育指導にあたる



コンクリート状の塊が多数むき出し状態の百石小学校校庭

百石小学校の校庭の コンクリート状の塊を 撤去できないか

質問 児童の安全面を考

えても、百石小学校の校

庭の南側に多数あるコンクリート状の塊は危険である。早く対策を打つべ

答弁(教育長) 原因は九

年前の運動会で、ぬかるんだ校庭に顆粒状の石灰

を散布したが、それが固まったと考えられる。撤去には千二百万円程の工事がかかるが、この危

険な状態をそのまま放置していくわけにもいかないので、今後対応していきたい。

合併後のイベントの 進め方はどうしていくのか

質問 二町が合併後、多くのイベントが一緒に開催されているが、その運営実績はどうなっているか。また増えたこれらのイベントは継続していくつもりなのか。改善の必要性はあると思っ

答弁 基本的には、まちづくりのエネルギーにもなっていることから継続したいと考えている。今年度は、合併初年度であったので運営面においてご迷惑をかけた部分がありました。今後、観光協会等、関係者と十分話し合い、魅力あるイベントにしていきたい。

2006年度主なイベントの運営実績

イベント名	期 間	来場者	予 算
百石・下田春祭り	4/29~5/5	25,000人	76万円
砂浜まつり	7/23	15,000人	450万円
百石まつり	9/15~9/19	45,000人	480万円
下田まつり	9/22~9/24	13,000人	200万円
おいらせ鮭まつり	11/11~11/12	8,000人	1,000万円



山崎 市松 議員

人口増加計画

について

質問 町長は、町の人口を早急に三万人以上に増やすと公言しておりますが、どういう計画のもとに、また、何年間で達成すると考えていますか。

答弁 町の人口は、平成三十二年の二万七千二百五十八人をピークとして推計されています。当町は、隣接に八戸市、三沢市をひかえ雇用市場があること、冬季は比較的雪が少なくこと等、定住人口の増加に必要な潜在要因を秘めた地域です。そこで土地利用見直し施策を展開し、人口三万人に達することは可能と考

えます。

質問 人口増加の一環として、保育園児、幼稚園児、小学生、中学生の、保育料・学費等いわゆる義務教育費を完全無料化する考えはないか。また、全国で実践している自治体はあるか。

答弁 町の活性化の最大要因は、人口増加にあることはご指摘のとおりです。町の保育料を算定するに際し、所得区分に応じた階層区分を設け、各階層において国の基準保育料より低く設定しております。

さらに町独自の施策として、十八歳未満の児童が三人以上いる家庭については、三人目の子どもに対し、低所得者には無料とし、所得のある世帯に対しては国の基準額の半額程度の軽減措置を講じています。次に、児童、中学生の学費無料化についてはですが、保護者の負担がない「就園奨励費」の制度が

あります。また、小中学校の生徒に対し、要保護準要保護制度があります。完全無料化は町の財政事情を勘案すると実施に踏み切れない状況です。

広域農道新敷一

六戸間の農道

拡張整備計画は

質問 六戸側は約八百メートル現在着工しております。旧下田町側約一千二百メートルの着工は。

答弁 当農道は十和田土地改良区管理農道ですが、当町行政区域側は平成十六年六月議会での答弁では「六戸町と協議をし、ラッシュ時の渋滞緩和及び交通安全対策の面から、バイパス化の整備に向けて国、県に対し要望することとなっております。今後、実施するとすれば、団体営事業等で実施可能であることを確認しております。十和田土地

改良区及び関係機関と協議し、整備を進めて参りたい。

広域農道向山一

古間木山線の

拡張整備計画は

質問 この農道約一キロメートルの古間木山側には、町民農園があります。農園の有効活用と、地域発展のために整備計画の考えはないか。

答弁 町民農園は、約三千平方メートルの敷地内で農作物づくりを行っております。また、当農道の受益地は、水田約四十ヘクタール、畑四十八ヘクタールあり、受益地面積や道路の延長、幅員等から営事業等での実施が可能で、新町での土地利用計画等で検討して参ります。

障害者自立支援法での

地域生活支援の実施は

質問 当町障害者基本計画において、地域活動支援センター開設と聞きましたがその概要等を伺います。

また、地域活動支援センター機能強化事業、委託事業等に対する補助の計画はないか。

答弁 法定化された事業は、地域活動支援センター

事業等五事業ほどありますが、ほとんどの事業は、事業者への委託または補助により実施して参ります。

また、「町障害者地域生活支援事業実施要綱」を定め、社会福祉法人等事業者については助成して参りたい。



旧小規模作業所 (旧八戸消防署北分署)

町税及び国保税等の 徴収率向上対策は

質問 平成十七年度の決算でも明らかのように、国保税を含めて町税の滞納は累増の一途をたどっており、特に国保税現年分の収納率は八八・一％で、対前年度比〇・七％の減となっている。これを受けて、わが町としては、住民をはじめ小・中学校、各団体や諸企業等への納税に対する広い分野での啓蒙活動が不可欠である。よって、高率ある徴収対策について問う。

町税等の収納率は、旧町時代から総じて低下傾向にあり、財源確保に苦慮しているところです。

そこで、今年度は収納率低下を防ぐことを最大の目標として、組織的にも滞納整理対策室を新たに設け、従来取り組んで参りました滞納整理に、八月から毎月第一日曜日と毎週火曜日の夜間に納税及び相談が出来るように体制を整え、平日に来庁できない町民の方々が利用しているところであります。

答弁 国民健康保険制度は、医療費を主とした相互扶助の精神で、市町村

を単位として創設・運営しており、その一部の財源として国民健康保険税を加入者から徴収しております。

納税意識高揚に向けた長期的視点に立ち、義務教育の教育課程において教えることは重要なことと考えます。

よって、税の趣旨普及

においては学校や各種団体等からの要請があれば町教育委員会が奨励している「出前講座」事業を通じて、いつでも出向ける体制を整えて対応することに致しております。

防災無線の自動起動装置の設置について

このようにいろいろな機会をとらえて、納税の意識の向上を図りながら、税に対する町民からの不公平感解消に向け努力して参る所存であります。

質問 総務省消防庁は、他国の弾道ミサイル攻撃や津波などの緊急情報を人口衛星経由で、全市町村に一斉通報する「全国瞬時警報システム」の整備に向け、各市町村へ受信装置を配備する方針を決め、〇七年度から本格運用を開始したい考えである。

「テム」の受信装置配備に向けて、防災無線を整備し受信態勢を整えるための方策について問う。

このシステムは、市町村では地域の防災行政無線が自動起動し、サイレンなどの警報を住民に発信する仕組みである。

答弁 国は平成十七年度から送信設備の整備に取り組み、平成十八年度には受信ソフトの改修を実施して平成十九、二十年年度において衛星モテムを防災無線整備市町村に整備させるべく新年度予算の確保に取り組んでいると聞いております。

これを受けて、わが町でも、国民保護法に基づいて、消防庁が〇四年度から検討、開発を始めて

当町においても新年度から防災無線の統合化に取り組むこととしておりますので、自動起動装置の整備を一体的に整備できると聞いております。

いる「全国瞬時警報システム」

きるよう進めて参ります。

地域の治安の維持と住民の 利便を図るための交番設置を

質問 平成七年四月二十二日オープンしたイオン下田ショッピングセンターは、十年余を経過し、若い層の就業人口の増加に伴い、県南地方における商業圏拠点として進出してきた。一時は土・日の連休では、約三万人の超人口集中現象があったとのこと。



解体予定の旧八戸消防署北分署

このことから、わが町として、イオン下田ショッピングセンター周辺地域の人口集中の著しい地域の治安の維持と住民の利便性を図ることから、県並びに三沢警察署に働きかけ、旧八戸消防署北分署跡地に交番を設置することについて伺いたい。

本定例会の補正予算に交番設置の候補地である旧八戸消防署北分署跡地をサラ地にすべく「北分署解体工事費」をお願い致しております。

答弁 イオン下田ショッピングセンターを核とする周辺地域は商業の集積に合わせて人口の集積も進み、これに比例する形

新年度においては、ぜひ交番の設置が実現できるように、県当局に対し、強力に要望して参る所存であります。

で事件事故の発生件数も多くなり、合併以前からその必要性を認識し、旧両町で県当局へ要望してきたところでです。

新年度においては、ぜひ交番の設置が実現できるように、県当局に対し、強力に要望して参る所存であります。



吉田 勝志 議員

新規アクセス

拡幅計画は

質問 サーマン広場から東側、土手の場所から木内々小学校東側農道を拡幅し、国道四十五号まで直線で結ぶ計画があるのか伺いたい。

また、三田消防第四分団から東団地までの拡幅計画があるか。

答弁 合併後、新規路線の場合、補助事業の制度見直しにより費用対効果という視点でとらえられ、事業が厳選される時代でもあります。また、三位一体改革による交付税の削減、国庫補助金の削減など、地方自治体も大変厳しい財政運営を強いら

れております。当町においても限られた財源の中で、必要不可欠な事業を検討し実施しています。従いまして、ご質問の件については、議員のご提言として受け止めさせていただきます。

次に、三田消防第四分団から東団地までの拡幅計画ですが、この路線は、町道第一奥入瀬団地線と現道が狭隘であることから、現在、建て替え整備している奥入瀬西団地と合わせて、まちづくり交付金事業を活用し整備することとしています。

今年度は測量設計と用地取得までを予定しており、地権者からの協力が得られれば平成二十年度までに工事を終了したいと考えています。

事業概要は、工事延長八十メートル、道路幅員六メートルの道路拡幅工事です。

道路の拡幅を

質問 間木から木内々小

学校に行く道路が狭く、歩道も狭い。小学生たちの通学路でもあるため、大変危険である。拡幅計画があるか伺いたい。

また、曙団地から中下田町営住宅に抜ける道路の拡幅は、どの程度進んでいるのか。

答弁 交通量も多くなっていることや、特に冬期間においては道幅もせまくなり、子どもたちが不便を感じながら利用していることは理解できますが、非常に厳しい財政運営を強いられているのが現状でありますので、今後の道路整備全体計画の中で前向きに議論して行きたいと思っております。

次に、曙団地から中下田町営住宅に抜ける道路の拡幅については、今年度予算確保ができたことから、用地測量を終え、現在は、地権者に対し用地の協力をお願いしているところです。地権者全員からの協力が得られれば道路整備に要する財源確保に努めて行きたい。

側溝の入れ替え

計画があるか

質問 間木地区の山内商店から下田診療所間の側溝は低いいため、雨が降ると町営住宅の方から流れる水の量が二〜三倍にも増えて道路にあふれるため、側溝の入れ替えについての計画があるか。

答弁 側溝入れ替えが直ちに抜本的解決につながるものであれば整備したいところですが、流末も含めた全体の排水整備を検討しないと問題解決にならないと考えております。今後とも大雨時における雨水排水対策を検討して行きたい。

質問 そこは雨が降ると交通規制で車が止められるし、側溝も道路から十五センチから二十センチ下がっています。

三田、三本木地区の子どもたちの通学路ともなっていて危険です。

町長から、少し生ぬるい答弁をいただいたけれども、そういう必要などころはスピードを早くしていただきたい。(答弁不要)

街灯計画は

質問 街灯計画があると聞いていますが、町内ごとの計画はどのようなようにされているか。

答弁 すでに町内会ごとに配布してあります、既存の街灯が表示されている調査図をもとに要望を受け、調整し、整備計画を策定する予定です。

調整区域の見直し

について

質問 調整区域から市街化見直し計画はどのように進んでいるか。

答弁 市街化調整区域内に、一定要件のもとで建

築可能とする区域指定案に対して県から異議ない旨の回答を得ております。今後、都市計画審議会の開催と住民説明会などがあり、年度内の告示運用に向け作業を進めていきます。

道路整備を

質問 緑ヶ丘四丁目周辺は水たまりができて困っているが、どのように考えているのか。

答弁 厳しい財政状況下の中で計画的に町道整備を進めており、民間会社が分譲し所有する道路まで整備できる状況下にならぬことをご理解いただきたい。

質問 担当課でも何回か確認しているようであり答弁は不要だが、予算の中でのごとで厳しいとは思いますが、住民の格差というものが無いよう、できるだけ早く排水対策の整備をしてもらいたい。

男女共同参画社会の 対応について

質問 男女共同参画社会実現のためには、まず家庭生活においてその趣旨をよく理解し実践することが重要だと思います。

合併協議会の調整内容として、新町において基本計画を速やかに策定し、事業の推進に努めることとしていますが、時期はいつ頃になるのか伺います。

答弁 現在、平成十九年度をめどに自治基本条例の策定作業を行っています。

条例の内容に基づき策定委員を設置し、県のアドバイザー制度も活用しながら、自治基本条例策定後、半年位で策定したい。

質問 当町を管轄している福祉事務所の配偶者暴力相談支援センターに寄せられた相談状況は、平成十七年は百六十件、平成十八年一月から九月までは百四十九件で、十二月までの三カ月分を加算しますと、前年を大きく上回るのではと予想されます。

このような状況の中で、当町において被害を受けている女性の報告はないか。

答弁 当町への被害相談や報告はなく、データは持ち合わせておりません。

ちなみに、青森県の現

状を申しますと、平成十六年度に県配偶者暴力相談支援センターに寄せられた相談件数は、千四百八十五件で、前年度に比べて五百六十八件(六十一・九%)の増加となり、全国第七位、北海道・東北では最も多い件数となっております。

質問 数字に出てこない潜在的なものもあるので、管轄の相談所や、電話番号を広報で紹介する等の住民サービスをお願いしたい。また、交番に「女性被害相談所」を設置できると伺っていますので要望しておきます。

質問 十和田労働基準監督署に寄せられた相談件数は、十七年一年間で千三百三件と伺っています。職場における賃金の格

差や待遇の差別はないか(町内企業も含む)また、出産育児等に対しての環境は整っているか伺います。

答弁 当町に関するデータは持ち合わせておりません。

県全体では、二千二百九件で賃金や待遇に係る相談で、出産、育児に係るものは八件となっております。

ハートピア プラザの 整備促進は

質問 旧下田町第六次総合振興計画において、生涯学習、情報ステーション、図書館、資料館等の機能を兼ね備えた「ハートピアプラザ」の整備推進があったが、新町建設計画での位置づけはどのようなになっているのか伺います。

答弁 新町建設計画においては、「ハートピアプラザ」の整備促進等をはじめとする個別事業の計画は掲載されております。



ハートピアプラザの予定地となっていた下田公園地内

質問 下田公園の縄文の森整備事業は、ブナの森や町民待望の「ハートピアプラザ」が整備されて初めて完成します。下田公園というすばらしい自然環境は、春夏秋冬、町内外から訪れる大勢の皆様から高く評価され、おいらせ町の貴重な財産であり誇りでもあります。

当町の中心に位置し、用地も確保していることから、是非、地の利を生かしたまちづくりを望みます。

今後の町総合計画の中

での対応として、地域の特性やバランスを考慮し、公正、公平な住民サービスが必要でないか伺います。

答弁 合併により「みなくる館」が整備されていることから、今一度「ハートピアプラザ」の整備については必要性を含めて、計画の見直しを図ることとしています。廃止ではありません。

常任委員会研修視察報告

平成十八年度において、常任委員会研修視察を実施したので、次のとおり報告いたします。

総務企画常任委員会

・日程 十月二十三日～二十五日

・研修先 神奈川県箱根町、藤沢市

・目的 指定管理者制度の導入について
海浜公園の施設概要について

箱根町の指定 管理者制度

なく、導入を契機に施設のあり方についても見直しを行っています。

研修目的である「指定

管理者制度導入」に係る

研修のため箱根町を訪問

しました。箱根町といえ

ば芦ノ湖、関所、街道、

大学駅伝などが思い起こ

されますが、名実ともに

国際観光地です。

行政運営においても、

先進的な取り組みをして

いる箱根町は、昨年五月

に「指定管理者制度の基

本方針」を策定していま

す。

同町では法に基づき、

この制度を導入すること

のみを目的とするのでは

なく、導入を契機に施設のあり方についても見直しを行っています。

進め方については、

①その施設を最大限に有

効活用できるか

②質の高いサービスを提

供できるか

③各種コストを抑えるこ

とができるか

これらについて検討を

加えて、個別の施設ごと

に対応を決定しているこ

とが、特に注目される点

でありました。

同町での本制度を導入

する施設は十七施設、導

入しない施設十三施設、

すでに公益団体に管理委

託している施設と、三つ



箱根町で意見交換する委員

に分けられていました。

それらは慎重に審査を行っ

たうえで、指定管理者の

募集及び選定を行い、前

年の十二月議会の議決を

経て、平成十八年四月か

ら開始されています。

指定管理者制度は新し

い制度のため、様々な課

題も抱え、他の自治体の

動向等にも留意して、継

続的に検証を行うことと

するなど、実態に即した

柔軟な対応策が必要との

ことでした。

指定期間は五年間。ま

た町民活動の拠点となる

施設は、設置目的に照ら

して地域の活力を取り入

れた管理に配慮がなされ

ていました。

一方、事業効果が期待

できる施設については、

公募しないで、該当する

と認められる町民団体等

を選定できるようにして

いました。それぞれに知

恵を絞り、工夫を凝らし

た施策には、住民を主体

として取り組んでいる行

政姿勢を実感できました。

人と自然に やさしい公園

次に神奈川県立辻堂海

浜公園の概要ですが、広

さは八十九ヘクタール。

広大な砂丘地帯にジャン

ポ・プール、交通公園、

交通展示館、芝生広場、

しょうなんの森などの施

設が整備されていました。

湘南海岸と一体になっ

ていて、毎年十万人を超

える利用者で賑わう「人

と自然にやさしい公園」。

みんなが楽しめるバリア

フリーモデル公園として

利用され、平成十八年四

月から指定管理者制度を

導入していました。

わが町の指定管理者制

度の具体的な取り組みは

これからです。

今回の研修で得た成果

を活かしながら、まず

「住民が利用する施設」

産業建設常任委員会

・日程 十月三十一日～十一月二日

・研修先 千葉県勝浦市、鋸南町、円山町

・目的 漁港の整備、漁協関連施設の整備に
ついて

漁港の整備と 展望

さである。漁港の数からしても海と密接な関係にある市ということがわか

今回の視察研修の大き

なならひは二点ありまし

た。一点は、百石漁港に

対しての今後の展望をど

のようにとらえてゆくか。

二点目は漁港と町との

関わり方はどうあるべき

かを探ることでありまし

た。そして視察場所も当

町と人口が同じ規模の千

葉県勝浦市、人口は少な

いが、一漁業組合が主体

的に事業を展開している

保田（ほた）漁港であり

ました。

勝浦市の漁港について

驚いたのは、漁港数の多

であることを念頭におい

て進めていくことが大切

であると感じました。

柏崎 利信 記



漁港整備の説明を聞く（勝浦市の漁港）

性レクリエーションの利用者の増加に伴い、都市部と漁村との積極的な交流を進めている。

確かにこれらすべてが収益につながっているのはすごい。自主的な運営姿勢、先を見通す力、さらに漁港という「点」の論議に止まらず、「画的」視点では、日本の里に漁

港の資金で色々な花木を植栽し、一年中観光客を呼び込む努力をしている。やはり行きつく所は人であった。そこに住む人々の考え、行動、努力がそのまちを生かし、育ててゆくのだという実感である。

吉田 絹恵 記

●文教民生常任委員会

・日程 十月三十一日～十一月二日

・研修先 栃木県小山市、東京都奥多摩町

・目的 環境美化条例について

水源の環境保全について

環境の保全と 美化意識

保田漁港は、鋸南（きよなん）町にあり、東京湾の浦賀水道に面する房総半島の南西部に位置し、豊かな漁港を有している。

しかし、東京湾内の開発等と海流の変化により、漁獲高が年々減少していることを危惧し、十一年前から人を相手にした第三次産業「海業」に取り組み、食堂事業「ばんや」を開業。この「ばんや」を中心に「ばんやの湯」さらには、プレジャーボートの短期受け入れ、海洋

初日の研修地である栃木県小山市は、東京から約六十キロにあり、壮大な歴史ロマンのある、人口が約十六万人、自然と調和した美しい田園風景や環境を大切にし、都市近郊型農業として安心安全で美味しい食の基地を目指した北関東の中核都市であります。

現在小山市では、環境の保全と、市民の環境美化意識の高揚を図るために「環境美化条例」を平成十六年四月一日から施行しています。

この条例を制定するまでに、平成九年四月に「空き缶等のポイ捨て防止に関する条例」を施行しており、市民に理解しにくい内容であったことと、「歩行中の喫煙」また「愛がん動物の管理」

と、別に定める必要が生じ、条例制定が急務になったということでした。

自然と調和した美しい環境を大切にするという意識の高さが伺われました。現在、条例施行から二年が経過していますが、その効果については、市ではアンケート調査などを行い、その結果、ゴミの減少等、目に見えた結果は見当たらないとのことでしたが、市民の関心度が上がったことと、モラルの向上が見られたとのことでした。

市の担当者からの説明を聞いて、取り組みの難しさ、常に前向きに地道な活動が必要であるかと感じました。

当町においても、町の将来像である「奥入瀬の清流にはぐくまれた美しい田園定住都市」を目指すためにも、環境美化意識を高め、息の長い地道な取り組みが必要であると思いました。

二日目の研修地である東京都奥多摩町は、東京都の十分の一に相当する



水源の環境保全を学ぶ（奥多摩小河内ダム）

あります。また、東京都の水瓶（水道専用ダム）の一つである小河内ダムを有し、その水源である多摩川の環境保全について様々な取り組みをしているとのこと。

ダム下流域の下水道整備（現在整備中）、行政と住民が協働で実施している「奥多摩湖周辺美化推進連絡会」あるいは、

木材価格の長期的な低迷により、森林の手入れが行き届かず荒廃している。森林を再生させる「森林再生、枝打ち事業」また、荒廃した森林に野生動物特にニホンジカの繁殖による森林の裸地化を防ぐため、東京都特定鳥獣保護管理計画実施計画に基づき、捕獲し、食肉活用を図るため、食肉処理加工施設を整備し、地場食料として地域の活性化と観光振興を図っているということでした。

当町のように、平坦な地域と違い、雄大な自然を有しているがための苦悩とその恵みにより、共生している姿が見られます。

「水の保全是山から」当町においても、奥入瀬の清流を守っていくため、奥入瀬川流域全体で取り組んでいかなければならないことの一面を見たような気がします。

川口 弘治 記

議長日誌

10月

11月

12月

2	総務企画常任委員会	2	知事を囲む行政懇談会	1	第四回定例会く六日
3	文教民生・産業建設常任委員会	2	十和田地域広域事務組合議会定例会	2	下田消防団幹部忘年会
7	八戸市百石会	4	熊本県菊池市議員視察来庁	4	戸籍電算化システム始動式
12	議会議事運営委員会	4	議会議事運営委員会	7	平成十八年度第二十回下田朝野球大会閉会式
13	議事運営委員会	11	議事・局長研修会	14	都市計画審議会
21	百石中・木ノ下中・下田中学校文化祭	15	議員全員協議会	17	青少年健全育成町民大会
22	六ヶ所村文化協会とおいらせ町文化協会の交流会	17	県高規格道路建設促進期成会総決起大会	21	平成十九年度重点事業要望（仙台市）
23	総務企画常任委員会視察研修	21	町村議会議長全国大会	22	平成十八年度第二回百石町地域水田農業推進協議会
24	三沢地区衛生センター運営協議会	22	全国将棋祭り実行委員会	22	八戸地域広域市町村圏事務組合定例会
26	国営相坂川左岸農業水利事業完工式	26	おおぞら保育園新園舎落成記念式典	23	平成十九年度重点事業要望（県庁）
27	町表彰制度懇談会	27	議会議事運営委員会	25	三沢地区衛生センター運営協議会
27	第一回都市計画審議会	28	八戸地域広域市町村圏事務組合臨時議会議事務組合議会定例会	26	三沢地区衛生センター運営協議会
31	文教民生・産業建設常任委員会研修視察		十和田地区環境整備事務組合議会定例会	26	議員全員協議会
	(十一月二日)				商工会合併契約締結調印式

小学生による
ミニ議会開催



ミニ議会

まちづくり推進委員会
の主催によるミニ議会が、
十二月二十五日に、おいらせ町議会議場において開催されました。
町内の各小学校六年生十六名が議員となり、町当局に対し一般質問を行いました。
図書館のあり方や信号機の設置、畑地の減少と野菜づくりなど、広範囲にわたる質問や要望がありました。

議会は自由に傍聴できます！

次回定例会は3月です。傍聴ご希望の方は事前に開会期日及び会場について
議会事務局にご確認ください。12月定例会の傍聴者は32人でした。

編集後記

新生おいらせ町がスタートして間もなく一年を迎えますが、皆様がどのような思いでこの一年を過ごされたのか気になります。

合併後の行政や環境の変化に対する評価は様々ですが、旧両町が目指した「この町に住んでよかった」と実感できるまでには、まだ長く険しい道が続くものと思われま

す。沈黙と傍観からは改善も改革も生まれません。町民一人ひとりが意見を出し合い町政に反映させるために、できるだけ多くの方々に本誌を愛読いただき、時には議会を傍聴していただくことにより、町の動きに関心を持ってほしいと思

います。

馬場 正治 記